地方におけるMIS開催の波及効果

－高知県内図書館員による情報交換会の実践と連携事例－

諏訪有香[1)]、依光朋子[2)]
[1)]高知学園大学高知学園短期大学図書館、[2)]高知リハビリテーション専門職大学図書館

第 38 回医学情報サービス研究大会（MIS38）を契機として、高知県内の医学図書館員による情報交換会が年に 2 回、継続的に開催されている。本取り組みは、参加者が飲食を交えながら自由に話題を提供し合う「井戸端会議」形式を採用しており、自然な会話の中で業務上の課題や工夫、研修会・勉強会に関する情報などを共有している。

この「井戸端会議」的情報交換会は、形式張らない雰囲気の中での意見交換という点が特徴である。参加者は毎回少しずつ異なり、また参加人数も限られているものの、MIS を契機としたネットワーク形成の一例として、地方における MIS 開催の意義とその波及効果を示す事例となり得る。

実際に、MIS38 の実行委員を経験したことをきっかけに、これまで交流のなかった近隣の図書館同士で新たな連携が生まれている。たとえば、高知リハビリテーション専門職大学図書館と土佐市立市民図書館では、特定のテーマに基づいた図書の交換展示を実施し、地域住民への情報提供の幅を広げている。また、高知医療センター図書室と高知県立大学附属池図書館では、資料の相互利用が始まり、県立大学の学生や教職員が図書館を通じて医療センターの資料を活用するなど、実務に直結する連携が実現している。

これらの連携は、大学図書館と公共図書館、大学図書館と病院図書室といった館種を越えた交流であり、これまでにない新たな協力関係の構築につながっている。

高知大学が取り組むオープンアクセス（OA）加速化事業に関するシンポジウムの情報も、図書館ネットワークを通じて高知県内の大学に広く共有され、研究支援の観点からも図書館の存在感が高まっている。

他部署からも図書館が情報のハブとして頼りにされる場面が見られるようになってきている。たとえば、高知リハビリテーション専門職大学図書館では、教務担当の職員から、電子教科書の導入状況について、高知大学や高知県立大学の事例を共有してほしいという相談が寄せられた。図書館同士のつながりが、こうした学内の情報ニーズに応える基盤となりつつあることも、本取り組みの重要な成果である。

本発表では、こうした情報交換会の運営方法や具体的な連携事例を紹介し、地方における図書館員同士の連携強化の可能性について考察する。

参考文献：

諏訪有香・濱田美晴. 第 38 回医学情報サービス研究大会（MIS38）開催報告 - ハイブリッド方式で開催して -. 薬学図書館, 69(1), 31-37, 2024-04-30

諏訪有香. 第 38 回医学情報サービス研究大会（MIS38）開催報告. 医学図書館, 71(1), 27-34, 2024-03-29